

箴言20-23章「知恵による支配」

1A 明らかにされる心 20

1B 様々な物差し 1-12

2B 取り引きにおいて 13-23

3B 王の統治 24-30

2A 正しい者の支配 21

1B 悪者のねじれ 1-9

2B 隣人への憐れみ 10-19

3B 悪者の厚かましさ 20-31

3A 富より望ましいもの 22

1B 富の報い 1-16

1C 知恵の優先 1-8

2C 憐れむ者への祝福 9-16

2B 知恵ある者の言葉 17-29

4A 災いからの救い 23

1B 貪欲 1-11

2B 子への懲らしめ 12-28

3B 酩酊 29-35

本文

箴言の学び 20 章に入ります。

1A 明らかにされる心 20

1B 様々な物差し 1-12

20:1 ぶどう酒は、あざける者。強い酒は、騒ぐ者。これに惑わされる者は、みな知恵がない。

今日の学びは、酒の問題から始まります。新しい内容です。これまでの「ぶどう酒」が食卓に設けられるなど、肯定的な表現で出てきました。けれども、ここではいわゆる酩酊に陥る、酒の悪い側面について話し始めます。今日の学びの最後、23章29節にその弊害が書かれていますので、そこで詳しく話したいと思いますが、私たちは聖書時代における「ぶどう酒」の定義を知らないので、混乱や混同が起こっています。ここに「強い酒」とありますね、これが理解への鍵です。

聖書の時代に、「ぶどう酒」あるいは「ワイン」という言葉を使うとき、ぶどう汁全般を指します。つまり現在の「グレープジュース」も、ぶどう酒の一つとして数えられていたのです。酒ぶねにぶどうの実が放り込まれて、それを押しつぶして出てくる新鮮な汁は、「良いぶどう酒」つまり良質のぶ

どう酒でした。カナの婚礼のときに、イエス様が水から変えられたぶどう酒を、披露宴の幹事の人
が、「良いぶどう酒をよくも今まで取っておきました。(ヨハネ 2:10)」と言いましたが、それはまだほ
とんど発酵していない、採りたてのぶどう汁のことを意味していました。そしてパウロがテモテに、
「これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のためにも、少量のぶ
どう酒を用いなさい。(1テモテ 5:23)」と言いましたが、当時だけでなく現在でもイスラエルでは、
風邪を引いたとき等にグレープジュースを飲むことを勧めます。滋養のためです。

そして、過越の祭りのときに用いられたぶどう酒は、三分の一を水で薄めたそうです。発酵され
たアルコール飲料ではないように、念を入れていたのです。このように「ぶどう酒」と呼んでいるも
のは、現在のワインの定義と異なります。ここ箴言 30 章1節に出てくる「強い酒」は、いわゆる現
在の「ワイン」の範疇に入ります。したがって、聖書で数多くぶどう酒が祝いの時に使われている
からと言って、今のワインや酒を楽しんでよい、ということにはなりません。「強い酒」の範疇に入る
からです。けれども、なぜここで酒の話をするのか？2 節から 12 節まで一気に読んでみたいと思
います。

20:2 王の恐ろしさは若い獅子がうなるようだ。彼を怒らせる者は自分のいのちを失う。20:3 争い
を避けることは人の誉れ、愚か者はみな争いを引き起こす。20:4 なまけ者は冬には耕さない。そ
れゆえ、刈り入れ時に求めても、何もない。20:5 人の心にあるはかりごとは深い水、英知のある
人はこれを汲み出す。20:6 多くの人は自分の親切を吹聴する。しかし、だれが忠実な人を見つけ
えよう。20:7 正しい人が潔白な生活をするときに、彼の子孫はなんと幸いなことだろう。20:8 さば
きの座に着く王は、自分の目ですべての悪をふるい分ける。20:9 だれが、「私は自分の心をきよ
めた。私は罪からきよめられた。」と言うことができよう。20:10 異なる二種類のおもり、異なる二
種類の枘、そのどちらも主に忌みきらわれる。20:11 幼子でさえ、何かするとき、その行ないが純
粋なのかどうか、正しいのかどうかを明らかにする。20:12 聞く耳と、見る目とは、二つとも主が造
られたもの。

いろいろな話題を扱っている一つ一つの格言で、共通のもの、流れているものは、5 節、「人の心
にあるはかりごと」また、12 節、「聞く耳と、見る目」であろうと思われます。人の心の内にあるもの、
それが主からのものであれば、御霊によって与えられているものであれば、それをしっかりと守る
こと、そして聞いている耳と見ている目をしっかりと持っていることでありましょう。5 節に、英知の
ある人は、どこから主の知恵を引き出せばよいか分かっています。心に与えられた思い、深い井
戸の水のように汲み出すのです。その反対に、私たちは純粋だと自分では思っている、実はそ
うではなく、神の正義と公正に照らせば不純なこと、汚れていることが多々あるのです。

2 節において王の怒りが出ているのは、決して王が個人的に憤慨しているのではなく、神がその
王を立てていて、ご自身の怒りをその王を通して表現されることがあるからです。8 節にある、悪を
振り分ける姿にそれが表れています。したがって、箴言 31 章には王は、正しい裁きをすることが

できないから強い酒を飲んではいけないと戒められています。そして、4 節の怠け者については、見た目には刈り入れ時に動きますが、実はその人の実質は、冬、まだ時が来ていない時から前もって用意するところに表れています。そして 6 節、口ではいろいろなことを語っている人は多いですが、本当に忠実な人、しっかりと主から命じられていることを行なっている人はとても少ないです。そして 11 節で幼子でも、何を本当は思っているのか、口で言っていることではなくその行ないで、表れているということを話しています。

2B 取り引きにおいて 13-23

20:13 眠りを愛してはいけない。さもないと貧しくなる。目を開け。そうすればパンに飽き足りる。

13 節以降は、主に経済活動、お金の動きの中における、人々の心の純粋さが語られています。ここ 13 節では、しっかりと働くことについての勤勉な心について話しています。確かに睡眠は大事です、けれども神は、しっかりと働くための明晰な頭脳を与えておられます。そのしっかりとした思考を保っていること、これは神からの賜物です。

20:14 買う者は「悪い、悪い。」と言うが、買ってしまえば、それを自慢する。20:15 金があり、多くの真珠があっても、知識のくちびるが宝の器。20:16 他国人の保証人となるときは、その者の着物を取れ。見知らぬ女のためにも、着物を抵当に取れ。20:17 だまし取ったパンはうまい。しかし、後にはその口はじゃりでいっぱいになる。

人の心の深さを知って、経済活動をしないといけません。ただ言葉で言っていることで、信じてはいけないということです。物を買う人が、「悪い、悪い」と言っても、それは値段を安くしてもらうための駆け引きにしかすぎませえん。そして保証人となる時も、「必ず返済するから」という言葉も、保証を取り付けるための手段でしかありません、抵当を取ることは決して相手を疑っていることではなく、賢いことです。そして、騙し取ったパン、つまり不正で稼いだ者は必ず後で大変な思いをすることになります。

20:18 相談して計画を整え、すぐれた指揮のもとに戦いを交えよ。20:19 歩き回って人を中傷する者は秘密を漏らす。くちびるを開く者とは交わるな。20:20 自分の父や母をのろう者、そのともしびは、やみが近づくと消える。20:21 初めに急に得た相続財産は、終わりには祝福されない。20:22 「悪に報いてやろう。」と言ってはならない。主を待ち望め。主があなたを救われる。20:23 異なる二種類のおもりは主に忌みきらわれる。欺きのはかりはよくない。

まず 18 節ですが、綿密な議論、これは特に戦いの時に必要です。イエス様は、弟子として生きること自体が、費用の計算をしなければいけないことを教えられました(ルカ 14:31)。よく考え、そして語るべき言葉を選ばなければいけないのですが、それをしないと 19 節、中傷となっていきます。気をつけなさいといけません。そして 20 節、親という神のくださった権威を尊重する、これは私

たちに思慮深さを与えます。この基本を曲げると、心の中も捻じれてきます。そして 21 節、その親から受ける相続財産についてですが、ソロモンが知恵であると言っている基本原則は、「骨折って働くと、主はそれを祝福してくださり、その富が残る。」ということです。その原則から外れると、富を管理する能力が身に付いていないので、その富はむしろ自分に災いをもたらすのです。

22 節については、本当に堪えどころです。悪に対して報いたい衝動にかられます。しかし、自分で自分を救わなくてよいのです、主が救ってくださいます。だから主を忍耐して待ち望みます。そして主は公正な方です、それが 23 節、二種類の重りを忌み嫌われるところに表れています。

3B 王の統治 24-30

20:24 人の歩みは主によって定められる。人間はどうして自分の道を理解できようか。

私たちはこの反対を考えます。自分の歩みは自分で定めるのだ、とするのです。けれども、そこで気づかないといけないのは、どうして自分の歩みを理解できているのか？ということです。自分の行ないは純粋だと思っても、実はこれまで読んできたように自分をだまし、周りの人をだましているような罪深さ、肉の弱さを持っています。ですから、私たちは神の御心にゆだねる祈りが必要です。牧者チャックが、こう言いました。「いかに物事を解決するか神に指示を与えるのではなく、全てを神の前に持ってきてそこに置いて、「主よ、あなたは私よりも知恵があることを知っています。あなたがよしと思われるように、ただ成し遂げてください、主よ。」と祈るのです。」

20:25 軽々しく、聖なるささげ物をするといい、誓願を立てて後に、それを考え直す者は、わなにかかっている人だ。20:26 知恵のある王は悪者どもをふるいにかけて、彼らの上で車輪を引き回す。20:27 人間の息は主のともしび、腹の底まで探り出す。20:28 恵みとまこととは王を守る。彼は恵みによって王位をささえる。20:29 若い男の光栄は彼らの力。年寄りの飾りはそのしらが。20:30 打って傷つけるのは悪を洗い落とすため。腹の底まで打ちたたけ。

25 節には、私たちが礼拝行為、信仰の表明においてさえ、心の欺きが表れることを示しています。誓願を立てる、「私は、これこれのことをします。主に捧げます。」と言って、それでそれを後でひるがえす、要は本当の意味で心は主に明け渡されておらず、言葉のゲームを主の前で行っただけなのです。そして、神の正義を実現するために王が用いられます、26 節は悪への裁きにおいて、そして 28 節は恵みとまことが、その国に広がるために王が用いられます。「恵み」が広がるのですから、そこは完全な社会ではありません。人間が正義を追及すると人間の義が先に立ち、それで争いが起こり、痛みが生じるのです。不完全であっても、それでもそこにあるある祝福、人の欠けを超えたところにある祝福が満ちることが、恵みとまことであります。

そして、30 節は懲らしめの原則です。26 節は悪に対する処罰ですが、ここは悪による処罰を免れるため、それを繰り返さないようにして与える懲らしめです。私たちは、それぞれの人生で、生活

で、この傷を受けていると思います。しかし、それを肯定的に受けとめてください。それは主から来たものです。もし主がおられなければ、それは人生に対する恨みとさえなる否定的な出来事だったでしょう、けれども、主がおられれば、それは自分の心の深い部分から腫瘍が取り除かれたような、癒しさえ与えられる痛みなのです。チャック・スミスは、説教壇に上がる時にいつもびっこを引いていました。若い時に、フットボールで受けた傷です。一瞬の栄光のために動いていたことが、いかにはかないことかを彼はいつも主から教えられていたそうです。

2A 正しい者の支配 21

1B 悪者のねじれ 1-9

21:1 王の心は主の手の中にあつて、水の流れのようだ。みこころのままに向きを変えられる。
21:2 人は自分の道はみな正しいと思う。しかし主は人の心の値うちをはかられる。21:3 正義と公義を行なうことは、いけにえにまさって主に喜ばれる。

ここにも再び出てきました。全てが主の御手の中にあるということです。王であっても、いや王であるからこそ、その絶大な権力を有しているのに、主の御手の中で水路のように変えられて、動いています。そして2節、私たちの道も同じで、正しいと思っているけれども実はそうではないことを、主はいろいろなことを通して示されます。そして3節、いけにえ、主への献身、その信心深さでさえ、私たちは自分を騙します。そうではなく、はたして正義と公義を行なっているのか吟味が必要です。

21:4 高ぶる目とおごる心・悪者のともしびは罪である。21:5 勤勉な人の計画は利益をもたらし、すべてあわてる者は欠損を招くだけだ。21:6 偽りの舌をもって財宝を得る者は、吹き払われる息のようで、死を求める者だ。21:7 悪者は自分の暴虐に引きずられる。公義を行なおうとしないからだ。21:8 罪人の道はねじれている。しかし、きよい人の行ないはまっすぐだ。21:9 争い好きな女と社交場にいるよりは、屋根の片隅に住むほうがよい。

悪者の計画が頓挫することを教えています。最後の9節は、必ずしも女だけの問題ではありません。夫がいかに妻を治めるか、使徒ペテロが指導を与えています。「1ペテロ 3:7 同じように、夫たちよ。妻が女性であつて、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。」共に生活し、尊敬していれば、争いを避けることができ、自分の祈りが妨げられることはありません。そして5節、勤勉な人の計画、とあります。主から聞いたことを、しっかりと心に留め、そして計画を立てている人は益が出ていますが、その場で決めていく人々は欠損だけを得ます。

2B 隣人への憐れみ 10-19

21:10 悪者のたましいは悪事にあこがれ、隣人をあわれもうとはしない。21:11 あざける者が罰を受けるとき、わきまのない者が知恵を得る。知恵のある者が学ぶとき、その人は知識を得る。21:12 正しい人は悪者の家を見抜く。悪者どもは自分の悪事のために滅ぼされる。21:13 寄るべ

のない者の叫びに耳を閉じる者は、自分が呼ぶときに答えられない。

悪者のすることとして、憐れみを閉ざすということがあります。弱っている人、貧しい人、そうした人々に心を留めないとき、神からも心に留めていただけなくなります。憐れむ者が憐れみを受けています。そして 11 節、あざける者と知恵ある者との違いは、強制されるかどうかであります。知恵ある者は、進んで行なっていくので強いられることはありません。けれども、罰を受けるのを見ることによって、わきまのない者が知恵を得ます。強いられるまえに、自ら行なうことには知恵があるのです。

21:14 ひそかな贈り物は怒りをなだめ、ふところのわいろは激しい憤りをなだめる。21:15 公義が行なわれることは、正しい者には喜びであり、不法を行なう者には滅びである。21:16 悟りの道から迷い出る者は、死者の霊たちの集会の中で休む。21:17 快樂を愛する者は貧しい人となり、ぶどう酒や油を愛する者は富むことがない。21:18 悪者が正しい人のための身代金となり、裏切り者が直ぐな人の身代わりとなる。21:19 争い好きで、うるさい女というよりは、荒野に住むほうがまだましだ。

14 節と 15 節は対になっています。贈り物、賄賂は実際に憤りを宥める働きをします。けれども、それで正義は成り立ちません。公義こそが正しい者を喜ばせます。そして、16 節以降は、悪者が正しい者の前で敗北し、正しい者が勝利をする姿を描いています。18 節は興味深いですが、悪者が何かをしてきたこと、それも終わりには正しい者たちが掌握するということです。エステル記において、ハマンの悪事がばれた時に、彼の立てた杭に彼自身が付けられました。タラントの譬えにおいても、悪い僕の一タラントは十タラントの僕のほうに回りました。

そして 19 節には、再び争い好きな女の姿があります。これは繰り返しますが、女性を責めているのではなく、むしろ女性こそが家においてその平和のためにどれだけ重要な役割を果たしているのかを示している言葉です。

3B 悪者の厚かましさ 20-31

21:20 知恵のある者の住まいには、好ましい財宝と油がある。しかし愚かな者はこれのみ尽くす。21:21 正義と誠実を追い求める者は、いのちと正義と誉れとを得る。21:22 知恵のある者は勇士たちの町に攻め上って、その頼みとするとりでを倒す。21:23 自分の口と舌とを守る者は、自分自身を守って苦しみに会わない。21:24 高ぶった横柄な者・・その名は「あざける者」、彼はいばって、横柄なふるまいをする。21:25 なまけ者の欲望はその身を殺す。その手が働くことを拒むからだ。21:26 この者は一日中、自分の欲望に明け暮れている。しかし、正しい人は人に与えて惜しまない。

知恵ある者、あるいは正しい者と、悪者との対比です。知恵ある者は前もって蓄え、また勇士あ

る砦も攻略します。そして自分の舌を守ります。そして正しい人は分け与えます。悪者は蓄えられたものを飲み尽くします。また、他の人たちより自分が優れていると思っているので、本質的に人を嘲っています。そして自分の手で働かず怠け、欲望に明け暮れています。悪者はこのように厚かましいですが、しかし正しい人が勝利している姿を見ます。悪は善に対して勝ち誇ることはできないのです。知恵ある者が結局は治め、支配します。

21:27 悪者のいけにえは忌みきらわれる。悪意をもってささげるときは、なおさらのこと。21:28 まやかしの証人は滅びる。しかし、よく聞く者はいつまでも語る。21:29 悪者はあつかましく、正しい者は自分の道をわきまえる。21:30 主の前では、どんな知恵も英知もはかりごと、役に立たない。21:31 馬は戦いの日のために備えられる。しかし救いは主による。

悪者はいけにえさえ捧げることができます。悪意をもって捧げることさえできます。つまり、礼拝を捧げることもできるし、悪い動機で、礼拝をも、神をも利用して捧げることもできます。そしてそして自分を偽って、そうしたことをふるまうことさえできます。けれども、やはり主の前ではそうしたことは潰えるのです。実に、馬の戦いよりも主は力強く、主は救いを与えられます。私たちが頼るべきは、自分のそうした見かけの行ないではなく、主が救ってくださるという信仰です。

3A 富より望ましいもの 22

1B 富の報い 1-16

1C 知恵の優先 1-8

22:1 名声は多くの富よりも望ましい。愛顧は銀や金にまさる。22:2 富む者と貧しい者とは互いに出会う。これらすべてを造られたのは主である。22:3 利口な者はわざわいを見て、これを避け、わきまえない者は進んで行って、罰を受ける。22:4 謙遜と、主を恐れることの報いは、富と誉れといのちである。22:5 曲がった者の道にはいばらとわながある。たましいを守る者はこれらから遠ざかる。

富と知恵との関係をよく表している格言です。富は知恵を持つことによって付随して与えられますが、富を求めるとそれを失います。ソロモンの生涯がまさにそうでした、彼は富を求めず知恵を神に求めたので、神は知恵を与え、知恵だけでなく富も与えたのです。それが 1 節と 4 節にある言葉です。それから 2 節は、富む者は貧しい者に分け合うという神の掟があることを示しています。主が互いに出会うようにされていますが、それは分け合うためなのです。

そして 3 節と 5 節には、「避ける」とか「遠ざかる」という言葉が特徴的です。私たちは十分、これは神から来ている、これは人の罪だ、あるいは肉の行いだと思われるものから遠ざかっているのでしょうか？意外に、クリスチャンらしい、クリスチャン的に見えるものの中に、神の義とは相いれない自己中心的なことが含まれていたりします。それを見分けること、これはキリスト者の成熟であり、知恵です。

22:6 若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。

ここの「若者」は「男の子」と訳してもよい言葉です。懲らしめについての格言が出て来ていますが、若い時に教育することがいかに大切かをソロモンは教えています。そして、教えれば年老いてもそれから離れません。私たちの中で、信仰を持った人々はかつて教会の日曜学校に通っていたという人が多いと思います。偉大な牧者で、幼い時から母が子に主にあって教育をしていた人が多いです。

22:7 富む者は貧しい者を支配する。借りる者は貸す者のしもべとなる。22:8 不正を蒔く者はわざわいを刈り取る。彼の怒りの杖はすたれる。

7 節は富についての現実を話しています。けれども、これは霊的にも真理です。知恵によって霊的に富んでいる者が、結局は霊的に貧しい者、つまり神の道から離れている者たちを治めていくようになります。悪い者たちの悪は廃れるからです。悪い者、愚かな者、怠惰な者は自分がどんどん吸い込んでいこうとします。主に拠り頼む者は自分から溢れ流れる命によって、言葉を選び、そして分け与えていこうとします。

2C 憐れむ者への祝福 9-16

22:9 善意の人は祝福を受ける。自分のパンを寄るべのない者に与えるから。22:10 あざける者を追い出せ。そうすれば、争いも出て行く。けんかも、悪口もやむ。22:11 心のよさを愛し、優しく話をする者は、王がその友となる。22:12 主の目は知識を見守り、裏切り者のことばをくつがえす。22:13 なまけ者は言う。「獅子が外にいる。私はちまたで殺される。」と。22:14 他国の女の口車は深い穴のようだ。主の憤りに触れた者がそこに落ち込む。22:15 愚かさは子どもの心につながれている。懲らしめの杖がこれを断ち切る。22:16 自分を富まそうと寄るべのない者をしいたげる人、富む人に与える者は、必ず乏しくなる。

続けて、寄るべのない人に分け与える人たちに対する祝福、その反対のことをする人々に対する災いが書かれています、9 節と 16 節にあります。それから、嘲る者が再び 10 節に出て来ます。嘲るとは、自分が正しいとまず思っています。それから自分は知っているが、相手は知らないという立場から出ています。「自分が正しい」「相手は知らない」という態度は、信仰の共同体の中で一番厄介です。なぜなら、必ず対立が起こります。不一致や不調和が起こります。そして、悪口にも発展するからです。

そして 15 節には、子への懲らしめ、躰が書かれています。これらソロモンが書いている様々な愚かさは、子どもが躰を受けていないところから出て来ていることが分かります。主の命令は、「あなたの父と母を敬え。」でした。親の権威を知らない人は、神の権威を知りません。権威というものに服従することを拒む、愚かさが私たちの心にはあります。それに対して、躰によって、懲らしめによ

って打たれる必要があります。それを経た人は、その時は痛く悲しいですが、その後本当に豊かな平和を手に入れることができるのです。懲らしめがない人は、いつまでも心が不安定で、絶えず人から取ろうとはしますが、与えることができません。与えているつもりで、実は人から取っていくことの隠れ蓑にさえなっています。

2B 知恵ある者の言葉 17-29

22:17 耳を傾けて、知恵のある者のことばを聞け。あなたの心を私の知識に向けよ。22:18 これらをあなたのうちに保つなら、楽しいことだ。これらをみな、あなたのくちびるに備えておけ。22:19 あなたが主に拠り頼むことができるように、私はきょう、特にあなたに教える。22:20 私はあなたのために、勧告と知識についての三十句を書いたではないか。22:21 これはあなたに真理のことばの確かさを教え、あなたを遣わした者に真理のことばを持ち帰らせるためである。

22章 16節までは、ソロモンの格言でした。10章に「ソロモンの箴言」という言葉から始まって、ここまで続きました。そして 17節から、「知恵ある者のことば」という題名で始まります。そして、これを保っておくことは楽しいとあります。そして、これらのことは主に拠り頼む時の知恵なのだ、と言っています。そして 20節に「三十句」とあります。ここのヘブル語は「すぐれた言葉」と訳すこともできる場所ですが、文字通りには三十句です。けれども実際に、22章 22節から 24章 22節までにちょうど 30個の格言があります。これまでの格言と重なる部分が多いです。

22:22 貧しい者を、彼が貧しいからといって、かすめ取るな。悩む者を門のところで押えつけるな。22:23 主が彼らの訴えを弁護し、彼らを奪う者のいのちを奪うからだ。22:24 おこりっぽい者と交わるな。激しやすい者といっしょに行くな。22:25 あなたがそのならわしにならなくて、自分自身がわなにかかるといけないから。22:26 あなたは人と誓約をしてはならない。他人の負債の保証人となってはならない。22:27 あなたに、償うものがないとき、人があなたの下から寝床を奪い取ってもよからうか。

貧しい者への憐れみ、怒りや憤りから避けること、軽々しい約束事についての戒めです。

22:28 あなたの先祖が立てた昔からの地境を移してはならない。

当時の土地の境界線は、その端に石が積み上げられていただけでした。それを夜にこっそり動かして、自分の土地を広げ、隣人の土地を狭めることもできました。これをしてはならない、と教えています。先祖が立てた地境は、すなわち主によって割り当てられた土地です。主の約束がその通りであることを示す地境であり、それを動かすことは、他人のものを騙し取ることであると同時に主のものに手を触れることにもなります。

22:29 じょうずな仕事をする人を見たことがあるか。その人は王の前には立つが、身分の卑しい

人の前には立たない。

主にあってしっかりとした仕事をするならば、大きなことが任されるということです。

4A 災いからの救い 23

23章は、いろいろな災いから守られるための格言になっています。

1B 貪欲 1-11

23:1 あなたが支配者と食事の席に着くときは、あなたの前にある物に、よく注意するがよい。

23:2 あなたが食欲の盛んな人であるなら、あなたののどに短刀を当てよ。23:3 そのごちそうをほしがってはならない。それはまやかす食物だから。

支配者の出す食事ですから、いつもは食べることのない豪華なもの、良質なものです。ですから食欲をそそります。しかしそこで忘れてしまうのは、支配者への恐れ敬いです。その大食が恐れ敬いを忘れさせてしまうのです。

23:4 富を得ようと苦労してはならない。自分の悟りによって、これをやめよ。23:5 あなたがこれに目を留めると、それはもうないではないか。富は必ず翼をつけて、わしのように天へ飛んで行く。

知恵を求めたら必要な富は与えられますが、富を求めれば富は去っていきます。

23:6 貪欲な人の食物を食べるな。彼のごちそうを欲しがらな。23:7 彼は、心のうちでは勘定ずくだから。あなたに、「食え、飲め。」と言っても、その心はあなたとともにない。23:8 あなたは、食べた食物を吐き出し、あなたの快いことばをむだにする。

先ほどと同じです、食事を前にして食欲が出ます。けれども、そこで抑制が聞かなくなり、相手に利用されていることを見失います。

23:9 愚かな者に話しかけるな。彼はあなたの思慮深いことばをさげすむからだ。23:10 昔からの地境を移してはならない。みなしごの畑にはいり込んではいならない。23:11 彼らの贖い主は力強く、あなたに対する彼らの訴えを弁護されるからだ。

9節は、これまでの格言と同じです。知恵を受け入れることのできる人を選びなさい、ということです。他の人々には黙っていなさいということです。それから 10 節は、先ほどの地境への戒めであり、また貧しい者を搾取してはいけない、虐げてはいけないということです。

2B 子への懲らしめ 12-28

23:12 あなたは訓戒に意を用い、知識のことばに耳を傾けよ。23:13 子どもを懲らすことを差し控えてはならない。むちで打つても、彼は死ぬことはない。23:14 あなたがむちで彼を打つなら、彼のいのちをよみから救うことができる。23:15 わが子よ。もし、あなたの心に知恵があれば、私の心も喜び、23:16 あなたのくちびるが正しいことを語るなら、私の心はおどる。

再び懲らしめについての教えです。かなり強い言葉ですが、真意は「陰府からの救い」です。懲らしめることはその人が嫌いだからしているのではなくて、その益のためにしています。

23:17 あなたは心のうちで罪人をねたんではならない。ただ主をいつも恐れていよ。23:18 確かに終わりがある。あなたの望みは断ち切られることはない。

私たちが霊的に調子悪い時に、このことを思ってしまう。神を考えていない人のほうが、問題がなさそうなのです。だから、うらやましくなってしまう。しかし、そこで自分の気持ちや理解に拠り頼んではいけません。主に拠り頼むのです。いつも主を恐れます。そして、確かにそれぞれの終わりがあります。悪を行なう者は滅びという終わりがあります。善を行なう者は永遠の命の終わりがあります。ですから、決して望みは失望に終わることはありません。

23:19 わが子よ。よく聞いて、知恵を得、あなたの心に、まっすぐ道を歩ませよ。23:20 大酒飲みや、肉をむさぼり食う者と交わるな。23:21 大酒飲みとむさぼり食う者とは貧しくなり、惰眠をむさぼる者は、ぼろをまとうようになるからだ。

先ほどから大食に対する戒めがあります。

23:22 あなたを生んだ父の言うことを聞け。あなたの年老いた母をさげすんではならない。23:23 真理を買え。それを売ってはならない。知恵と訓戒と悟りも。23:24 正しい者の父は大いに楽しみ、知恵のある子を生んだ者はその子を喜ぶ。23:25 あなたの父と母を喜ばせ、あなたを産んだ母を楽しませよ。23:26 わが子よ。あなたの心をわたしに向けよ。あなたの目は、わたしの道を見守れ。23:27 遊女は深い穴、見知らぬ女は狭い井戸だから。23:28 彼女は強盗のように待ち伏せて、人々の間に裏切り者を多くする。

親だからこそ、年老いた親だからこそ、神から与えられた知恵があります。ここまで親の言うことを聞けと言っている、その第一番の戒めは、「遊女」でした。箴言の始めの9章分がまさに、女から遠ざかれという戒めが散りばめられていました。遊女は、まさに主との親しい関係から遠ざける、代替のものであります。ですから男性だけでなく、女性であってもあります。そして情欲に限らず、主にある神に対する信頼に取って代わる、自分の依存しているものであればそれを避けなければいけません。

3B 酩酊 29-35

そして今日の学びの最後が、酒に酔うことです。23:29 わざわいのある者はだれか。嘆く者はだれか。争いを好む者はだれか。不平を言う者はだれか。ゆえなく傷を受ける者はだれか。血走った目をしている者はだれか。23:30 ぶどう酒を飲みふける者、混ぜ合わせた酒の味見をしに行く者だ。23:31 ぶどう酒が赤く、杯の中で輝き、なめらかにこぼれるとき、それを見てはならない。23:32 あとでは、これが蛇のようにかみつき、まむしのように刺す。23:33 あなたの目は、異様な物を見、あなたの心は、ねじれごとをしゃべり、23:34 海の真中で寝ている人のように、帆柱のてっぺんで寝ている人のようになる。23:35 「私はなぐられたが、痛くなかった。私はたたかれたが、知らなかった。いつ、私はさめるだろうか。もっと飲みたいものだ。」

これまで格言の中で戒められていた、あらゆる愚かなことを酒に酔うと行なってしまいます。嘆き、争い、不平、傷を受けること。またねじれごとを語ること。こうした悪いことが、酒に酔う時に行います。その反対が、知恵に満たされることでした。前者が酒に支配されているのに対して、後者は自制を持っており、それゆえ神が彼に多くをお任せになります。まさにまともになっているような御言葉が、エペソ 5 章 15-18 節にあります。「そういうわけですから、賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。」御霊に満たされるというのは、知恵に満たされることでもあります。知恵を得ることは楽しいことであり、活力に満ちていることです。しかし愚か者は、近視眼で、目の前にあるものを貪ってしまいます。貪って貧しくなるのではなく、知恵を得て豊かにされましょう。

では、私たちは聖餐に入りたいと思います。箴言 21 章 29 節に、「正しい者は自分の道をわきまえる。」とありました。聖餐にあずかるとは、まさに自分の道をわきまえることです。ふさわしくないままで食べれば、その飲み食いがかえって自分を裁くことになる、それで病人も出てくるということもコリント第一 11 章には書いてあります。自分の道をわきまえるからこそ、確かに受け取るパンとぶどう酒を通して、主からの罪の赦し、また体の癒しを受け取ることができます。パウロは、「ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。(1コリント 11:28)」と言いました。